

5月28日(金) 晴れ 「おいしいキイチゴがありました」



ナガバモミジイチゴです。

3月31日付けで白い花を紹介しました。
黄色い実がなりましたので再度紹介します。
休憩時にちょっと摘まめば、ほっこり気分になります。

当地には、よく似たキイチゴでクマイチゴもありますが、これは赤い実がなります。

「アワフキムシの幼虫」

草や木の枝に付いている泡は、ホタルの幼虫と信じられていました。学校の教科書にもそのような記述があったようです。
しかし、その正体は、アワフキムシの幼虫です。

当地のビオトープでは、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの3種類が見られます。6月には夜8時から9時の間に乱舞する光景が圧巻です。



6月1日(火) 晴れ 「里山レンジャー出動」



里山ハウスから「里の恵みビオトープ」(右下写真)を眺めると、左側の景色が山斜面の杉の木に隠れていました。全景が日に入るように、檜の間伐を行いました。大木を思い通りの方向に倒すことができ、おもわず「**やったー!**」の歓声。



6月22日(火) 晴れ **オカトラノオ(丘虎の尾)**



花穂の先端が虎の尾のように垂れ下がることからこの名が。

平地から低い山地の陽当たりのよい草地や道端に見られるサクラソウの仲間です。

野の花の趣を持ちながらも美しい花を咲かせます。 (里の恵みビオトープ)

7月3日(土) 晴れ **ボランディアの方と共に外来種除去大作戦**



本日のターゲットはダンドボロギクです。

北アメリカ原産で、1933年愛知県段戸山で初めて記録され和の名の由来に。

草丈50~150cmとなり、山地、林、道端、公園といった環境に繁茂します。山火事後に大群落を形成するため、英名ではfire weedと呼ばれます。放置しておくと、周りの植物が駆逐されてしまいます。

その他に、春先から夏にかけて除去に努めている外来種に、オオカワジシャ(右写真)があります。

川原、水田、河川や湖沼の岸辺などに根茎を伸ばして繁茂します。外来生物法により特定外来生物に指定されており、抜き取ったものを安易に移動させることは禁じられています。



「**ネジバナ**」

目に止まると、なんか優しい気分になるネジバナです。最後は、ほっとするようなかわいい花で終わりたいと思います。